



2022年8月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2022年7月13日

上場会社名 株式会社カワサキ

上場取引所 東

コード番号 3045 URL <https://www.kawasaki-corp.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 川崎 久典

問合せ先責任者 (役職名) 管理部部長 (氏名) 池田 喜章

TEL 072-439-8011

四半期報告書提出予定日 2022年7月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年8月期第3四半期の業績(2021年9月1日～2022年5月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年8月期第3四半期	1,172	1.9	232	0.2	237	5.6	793	81.3
2021年8月期第3四半期	1,151		231		251		437	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年8月期第3四半期	369.37	
2021年8月期第3四半期	203.68	

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年8月期第3四半期	6,364	5,253	82.5
2021年8月期	5,696	4,583	80.5

(参考)自己資本 2022年8月期第3四半期 5,253百万円 2021年8月期 4,583百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年8月期		12.50		37.50	50.00
2022年8月期		20.00			
2022年8月期(予想)				30.00	50.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年8月期の業績予想(2021年9月1日～2022年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,535	2.4	250	19.8	263	26.2	822	73.0	382.83

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年8月期3Q	2,901,000 株	2021年8月期	2,901,000 株
期末自己株式数	2022年8月期3Q	752,260 株	2021年8月期	752,260 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年8月期3Q	2,148,740 株	2021年8月期3Q	2,148,808 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。

(経営成績の状況)

当第3四半期累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルスの感染症数が抑制され、経済活動の本格的な再開と経済活性化が期待される状況ではありますが、ロシア・ウクライナにおける社会情勢不安、急激な円安の進行、原油価格高騰による原材料価格の上昇等、国内外の見通しは依然として先行きが不透明な状況が続いております。

このような状況下、当社の服飾事業におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛や新しい生活様式がもたらす消費行動の変化によって、実店舗での業績は厳しい状況で推移しましたが、通信販売やテレビショッピングにおいては、拡大傾向となりました。賃貸・倉庫事業におきましては、2022年3月にカワサキ天理倉庫を売却し、2022年4月からは大型物流施設カワサキテクノプラザの建設(2023年3月竣工予定)を進めており、経営資源の有効活用と更なる事業拡大に取り組んでおります。

その結果、当第3四半期累計期間の業績は売上高1,172,551千円(前年同期比1.9%の増加)、営業利益232,221千円(前年同期比0.2%の増加)、経常利益237,409千円(前年同期比5.6%の減少)、上記のとおり、2022年3月にカワサキ天理倉庫を売却したことにより固定資産売却益を905,176千円計上したことで、四半期純利益793,682千円(前年同期比81.3%の増加)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

(服飾事業)

当事業部門におきましては、新型コロナウイルス感染症による消費の落ち込みにより、売上の影響を受けておりますが、販売体制の見直し、コストダウンの推進、販売在庫品目の整理等で収益体質の改善が引き続き進んでおります。その結果、売上高は442,149千円(前年同期比2.2%の増加)、営業利益は13,887千円(前年同期比42.1%の増加)となりました。

(賃貸・倉庫事業)

当事業部門におきましては、2022年3月にカワサキ天理倉庫を売却し、2022年4月からは大型物流施設カワサキテクノプラザの建設(2023年3月竣工予定)を進めており、経営資源の有効活用と更なる事業拡大に取り組んでおります。その結果、売上高は730,401千円(前年同期比1.6%の増加)となったものの、新倉庫の建設に関連する費用が増加し、営業利益は218,333千円(前年同期比1.7%の減少)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(流動資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産の残高は、前事業年度末に比べて386,320千円(75.4%)増加し、898,620千円となりました。この主な要因は、現金及び預金が414,544千円増加し、商品及び製品が27,249千円減少したことによるものであります。

(固定資産)

当第3四半期会計期間末における固定資産の残高は、前事業年度末に比べて282,640千円(5.5%)増加し、5,466,346千円となりました。この主な要因は、建物及び構築物(純額)が60,769千円、有形固定資産のその他(純額)に含まれる建設仮勘定が154,402千円、投資その他の資産のその他に含まれる敷金及び保証金が267,557千円増加し、土地が79,435千円、繰延税金資産が93,162千円減少したことによるものであります。

(流動負債)

当第3四半期会計期間末における流動負債の残高は、前事業年度末に比べて25,321千円(4.8%)減少し、501,752千円となりました。この主な要因は、1年内返済予定の長期借入金が68,720千円、その他に含まれる圧縮未決算特別勘定が69,547千円減少し、未払法人税等が78,291千円増加したことによるものであります。

(固定負債)

当第3四半期会計期間末における固定負債の残高は、前事業年度末に比べて24,132千円(4.1%)増加し、609,423千円となりました。この主な要因は、繰延税金負債が164,787千円増加し、長期借入金が114,480千円、その他に含まれる受入保証金が22,690千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産の残高は、前事業年度末に比べて670,149千円(14.6%)増加し、5,253,790千円となりました。この主な要因は、四半期純利益を793,682千円計上したものの、配当による減少123,532千円があったことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2022年4月13日に公表いたしました数値から変更はありません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報を前提としており、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年8月31日)	当第3四半期会計期間 (2022年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	161,504	576,048
受取手形及び売掛金	38,103	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	55,464
商品及び製品	235,256	208,007
原材料及び貯蔵品	34,902	32,533
その他	43,091	27,670
貸倒引当金	△557	△1,104
流動資産合計	512,300	898,620
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,981,103	2,041,872
機械装置及び運搬具（純額）	280,896	243,471
土地	2,650,802	2,571,366
その他（純額）	17,363	170,961
有形固定資産合計	4,930,166	5,027,671
無形固定資産	19,354	17,049
投資その他の資産		
繰延税金資産	93,162	—
その他	141,022	421,624
投資その他の資産合計	234,185	421,624
固定資産合計	5,183,705	5,466,346
資産合計	5,696,006	6,364,966
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,294	7,251
1年内返済予定の長期借入金	235,850	167,130
未払費用	39,816	44,472
未払法人税等	36,370	114,662
賞与引当金	1,789	3,155
その他	209,954	165,080
流動負債合計	527,073	501,752
固定負債		
長期借入金	130,990	16,510
役員退職慰労引当金	12,516	8,166
資産除去債務	222,284	223,149
繰延税金負債	—	164,787
その他	219,500	196,809
固定負債合計	585,291	609,423
負債合計	1,112,364	1,111,175

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年8月31日)	当第3四半期会計期間 (2022年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,300	4,300
資本剰余金	1,025,937	1,025,937
利益剰余金	4,028,620	4,698,770
自己株式	△475,216	△475,216
株主資本合計	4,583,641	5,253,790
純資産合計	4,583,641	5,253,790
負債純資産合計	5,696,006	6,364,966

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自2020年9月1日 至2021年5月31日)	当第3四半期累計期間 (自2021年9月1日 至2022年5月31日)
売上高	1,151,105	1,172,551
売上原価	601,154	668,540
売上総利益	549,950	504,010
販売費及び一般管理費	318,096	271,789
営業利益	231,854	232,221
営業外収益		
受取利息	0	0
受取手数料	272	3,547
補助金収入	15,627	-
その他	5,196	2,709
営業外収益合計	21,096	6,257
営業外費用		
支払利息	1,223	864
為替差損	105	204
その他	5	0
営業外費用合計	1,334	1,069
経常利益	251,616	237,409
特別利益		
固定資産売却益	240,528	905,176
抱合せ株式消滅差益	122,915	-
圧縮未決算特別勘定戻入額	-	69,547
特別利益合計	363,443	974,724
特別損失		
固定資産除却損	3,525	-
店舗閉鎖損失	3,022	-
役員退職慰労金	99,166	-
特別損失合計	105,714	-
税引前四半期純利益	509,344	1,212,133
法人税、住民税及び事業税	173,568	160,501
法人税等調整額	△101,892	257,950
法人税等合計	71,675	418,451
四半期純利益	437,669	793,682

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項のただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、当該会計基準の適用による当第3四半期累計期間の損益及びセグメント情報並びに期首利益剰余金に与える影響はありません。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

また、収益認識会計基準等を適用したため、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形」及び「売掛金」は、第1四半期会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」として表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前事業年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自 2020年9月1日 至 2021年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		四半期損益 計算書計上額
	服飾事業	賃貸・倉庫 事業	
売上高			
外部顧客への売上高	432,460	718,644	1,151,105
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	432,460	718,644	1,151,105
セグメント利益	9,772	222,081	231,854

(注) セグメント利益の合計額は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第3四半期累計期間(自 2021年9月1日 至 2022年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		四半期損益 計算書計上額
	服飾事業	賃貸・倉庫 事業	
売上高			
外部顧客への売上高	442,149	730,401	1,172,551
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	442,149	730,401	1,172,551
セグメント利益	13,887	218,333	232,221

(注) セグメント利益の合計額は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。